

科目名	芸術文化論B						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	文化学部	配当年次	2年次	単位数	2単位
教員名	桑原 夏子						

授業概要／Course outline

こんにちは、私たちの身の回りにはさまざまな「イメージ（像）」があふれている。本講義では伝統的な西洋美術にかぎらず、あらゆるメディア作品を対象に、イメージにまつわるさまざまなトピックを取り上げ、講師による講義後にディスカッションを行う。あらゆるメディア作品とは、アニメ、音楽、映画、CM、広告、小説、漫画などを含むものである。毎回、トピックごとにディスカッションテーマを決めた上で講義を行うので、参加者はテーマについて考えたことをメモしながら参加し、メモ内容をもとにグループディスカッションと総合ディスカッションを行うことで、アクティブラーニングを実現する。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク／反転授業）
授業の前半で講義を行い、後半ではディスカッションを行う点で、反転授業（ただし講義は授業内に実施する）と似た形式を取る。講師の指定したディスカッションテーマについて、授業ごとにグループディスカッションを行う。
- ・ICTを活用した授業（形態：クリッカー、タブレット端末、スマートフォン等を活用した双方向型授業）
講義を聞き、自分なりの考えをMoodle等にメモすることで、その後のディスカッションを活性化させる。

授業内容・授業計画／Course description・plan

本講義は、特定の時代や地域に問題を限定せず、広く西洋美術史に共通する問題のなかでも特に今日的な問題を取り上げて講義し、学生の考えを深めさせる性質のものである。したがって下記の要領で授業を実施する。

第1回目：イメージにおけるシンボリズムについて

美術をはじめ、映画や小説など広く芸術作品におけるシンボリズムについて講義し、討議する。

第2回目：ディズニーのプリンセス・ストーリーとジェンダー

ディズニーアニメのプリンセス・ストーリーの変遷からジェンダーの変化について講義し、討議する。

第3回目：良妻賢母をめぐる：ディズニー「白雪姫」とヴィクトリア朝絵画を中心に

ディズニー「白雪姫」と、19世紀イギリスのヴィクトリア朝絵画を取り上げ、それぞれの時代と地域における良妻賢母像について講義し、討議する。

第4回目：女性と「針仕事」：ディズニー「眠れる森の美女」と糸車、ベラスケスの《機織り女たち》、そしてココ・シャネルの逆襲まで

「針仕事」をキーワードとして、女性と針仕事がどのように結びつけられ、造形化されてきたのかの歴史を追い、講義し、討議する。

第5回目：からだと衣服：ヌードとファッションの人類学

ヌードは美術の重要なテーマの一つである。「ヌード」とそのあり方が、美術史のなかでどのように展開してきたのかについて、また衣服というものが身体表象に与える影響について講義し、討議する。

第6回目：漫画における異国への憧れ：外国と異世界の表象

60～70年代の少女漫画、また90年代以降の漫画における「異国」の表象を取り上げ、それが当時の日本文化と外国理解にどのように結びついているのかを講義し、討議する。

第7回目：アメリカン・コミックスにおける「残念なヒーローたち」

第二次世界大戦前後のアメリカン・コミックスを取り上げ、ヒーロー/ヒロイン像がどのように捉えられていたのかを講義し、討議する。

第8回目：犠牲は正義か？『オメラスから歩み去る人々』と『魔法騎士レイアース』をめぐるイメージの諸問題

アーシュラ・ル・グウィン『オメラスから歩み去る人々』とCLAMP『魔法騎士レイアース』とを比較し、犠牲を扱ったイメージ作品を取り上げ、それらと社会との問題について講義し、討議する。

第9回目：美術における「越境」：藤田嗣治をめぐって

東西を越境した芸術家である藤田嗣治に焦点をあて、グローバル時代における「西洋/東洋」の境界線の意味と限界について講義し、討議する。

第10回目：はかなさの表象：東洋の美学と西洋の哲学の比較研究

東洋と西洋における「はかなさ」の表し方の違いについて、絵画作品の比較を通して講義し、討議する。

第11回目：五感の哲学

美術作品は基本的に視覚に頼るものだが、それ以外の感覚を駆使した芸術のあり方について講義し、討議する。

第12回目：未知なるものとの出会い—現代アートの目指すもの

現代アートのねらいについて考え、それが近代以前の美術とどのように異なるのかについて講義し、討議する。

第13回目：著作権のありかとは？モノマネかオマージュか、協働制作か？

こんにちの社会において「パクリ」は深刻な著作権問題とみなされているが、時代によっては原作者に対する「オマージュ」として肯定的に捉えられることもあった。そこには著作権に対する意識の変化があったと考えられるが、美術作品や小説にメディアを広げて講義し、討議する。

第14回目：自己証明の哲学：ひとはなぜ人形を作るのか？

人はなぜ、自分の姿に似せた人形や彫刻を作るのかについて、さまざまな事例をもとに講義し、討議する。

第15回目：授業内試験と振り返り

理解度の確認として授業内試験を実施し、その後、授業の振り返りを行う。

なお、第2回目～第14回目のいずれかの回はオンデマンドとする。いずれの回をオンデマンドで実施するかについては学期が始まってから決定・通知することとする。

※履修者人数の都合などにより、授業計画や内容の順序が多少変更になることがあります。

事前・事後学修／Preparation and assignments

※事前学修の所要時間の目安は90分、事後学修の所要時間の目安も90分とされていますので、上記内容を確認してしっかりと事前・事後学修を行うこと。

第1回目：イメージにおけるシンボリズムについて

事前学修：身の回りにおける「シンボル」にはどのようなものがあるかについて各自考えをまとめておくこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第2回目：ディズニーのプリンセス・ストーリーとジェンダー

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第3回目：良妻賢母をめぐって：ディズニー「白雪姫」とヴィクトリア朝絵画を中心に

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第4回目：女性と「針仕事」：ディズニー「眠れる森の美女」と糸車、ベラスケスの《機織り女たち》、そしてココ・シャネルの逆襲まで

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第5回目：からだと衣服：ヌードとファッションの人類学

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第6回目：漫画における異国への憧れ：外国と異世界の表象

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第7回目：アメリカン・コミックスにおける「残念なヒーローたち」

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第8回目：犠牲は正義か？『オメラスから歩み去る人々』と『魔法騎士レイアース』をめぐるイメージの諸問題

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第9回目：美術における「越境」：藤田嗣治をめぐる

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第10回目：はかなさの表象：東洋の美学と西洋の哲学の比較研究

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第11回目：五感の哲学

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第12回目：未知なるものとの出会い—現代アートの目指すもの

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第13回目：著作権のありかとは？モノマネかオマージュか、協働制作か？

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第14回目：自己証明の哲学：ひとはなぜ人形を作るのか？

事前学修：前回の講義内容の振り返りと共に、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義の内容を振り返っておくこと。

第15回目：授業内試験と振り返り

事前学修：これまでの講義内容、グループディスカッションで新たに得た知見についても振り返りを行うこと。

事後学修：講義で解説した振り返りの内容を確認し、知識の定着をはかること。

授業の到達目標／Expected outcome

- ・西洋美術史の基本事項と最重要事項について10分間で他者に説明できる。
- ・西洋美術史と世界史のかかわりについて10分間で他者に説明できる。
- ・国際社会に必須な深い教養を身につけることができる。
- ・意見の異なる他者を尊重し、建設的な意見交換ができる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・幅広い教養
- ・専門知識・専門技能
【文化学部 国際文化学科】
 - ・人文学に関する知識

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・出席回数が全講義の2/3に満たなければ（＝10回以上の出席がなければ）、評価は「/出席日数不足」とする。

- ・生理痛や睡眠障害、気象病などの症状による登校困難者や、合理的配慮を必要とする学生については大学と連携の上で対応するため、まずは大学の当該事務にご相談すること。
- ・西洋美術史についての基礎的な知識を身につけている状態での履修が望ましい。

評価方法/Evaluation

- ・授業参加度40%
- ・試験60%

教材/Text and materials

授業中に適宜紹介します。

質問や相談の方法/Instructor contact

授業の前後に受け付けます。